

第3章 都市づくりの理念と目標



“楽しい野洲市”
小学校5年 白井 更紗さん

“未来の野洲市” 作品募集 入選作品より

第3章 都市づくりの理念と目標

1. 都市づくりの基本理念と将来都市像

(1) 基本理念

野洲市では、「人権」と「環境」の視点をもって、まちづくりの施策を進めてきました。そして、この理念の具現化に向けて「協働」を手法としたまちづくりに取り組んできました。

将来の都市づくりは、市域で暮らす人と人とのかわり、きずな、市域に訪れる人との交わり、人と自然の共生の上に成り立つものです。そして、三上山をはじめとする山々と琵琶湖、野洲川のうるおいといった地域固有の自然資源、さらに地域の文化・風土を後世に継承していくことが、野洲市の都市づくりの根本的な課題となるものです。また、土地の利用や建築物の誘導、道路、下水道等の都市基盤施設の整備は、この理念を基本としつつ行っていくことが重要です。

「人権」の尊重と「環境」との共生は、野洲市の根本的な考えとして定着しつつあります。都市計画マスタープランにおいてもこの理念を踏まえつつ、各地域の個性や魅力を生かした都市づくりを目指し、次のような基本理念を設定します。

『人権と環境を土台に、生きる意味が実感できる“地域”づくり』

(2) 将来都市像

かつて、わが国では、城下の武家屋敷から郊外の農家に至るまで敷地内に豊かな植栽がなされ、都市、農村を含めた生活空間は水、緑、花があふれていました。美しい農村の風景や庭の園芸は、近世末期に日本を訪れた外国人に高く評価されており、これが後に“庭園都市”につながるという考え方があります。

野洲市は、国指定の名勝である兵主神社の庭園や野洲市指定の名勝である苗村氏庭園、滋賀県希望が丘文化公園内の日本庭園の存在とともに、琵琶湖をはさんで対岸の大津市に位置する「天然図画亭庭園（居初氏庭園）」が、借景として三上山を取りこんでいるなど、庭園そのものと深くかわりがあります。



【滋賀県希望が丘文化公園内の日本庭園】
野洲市観光物産協会

また、“流れ”をつくる野洲川等の河川や、特徴ある三上山等の山々、前面に広がる琵琶湖、県立近江富士花緑公園にある多種多様な樹木など、都市全体に庭園を構成する要素が揃っているといえます。このため、三上山をはじめとする山々から、琵琶

琵琶湖岸、野洲川等の水辺、農村集落や河川、里山等を含めて美しい日本の原風景を構成する田園、そして住宅の庭木等の身近な植栽に至るまで、四季折々の花や緑を楽しむよう積極的な緑化を推進すること等により、都市全体を一つの庭園とした空間の創出を目指します。

野洲市の将来像としては、マザーレイク・琵琶湖、滋賀県下最大の川・野洲川といった“水”と、近江富士として親しまれている三上山、自然とふれあえる希望が丘等の豊かな“緑”が、郊外に広がる田園風景や緑あふれる快適な市街地とともに都市の骨格を形成します。そして、長い年月をかけて培われてきた歴史と文化が都市を彩り、市民はもとより訪れる人を含め、人々の心がかよう風土をつくり、これらが調和した美しい“庭園都市”を目指します。

～ 将来都市像～

『美しい水・緑と歴史に彩られた 心かよう“庭園都市”』

(3) 都市づくりの基本目標

基本理念に基づき将来都市像の実現を目指していくため、次のような都市づくりの目標を定めます。

都市づくりへの市民参画を進めます

- 都市づくりに市民等が参画できる仕組みづくりを進めます
- 都市づくりに関する市民等の活動を支援します
- 住民が主体となる地域づくりを誘導します

誰もが暮らしやすい都市づくりを進めます

- 多様な人々の暮らしに配慮したゆとりある住環境を創造します
- 美しい風景を守り育て、緑豊かな都市づくりを進めます
- 安全・安心に暮らせる都市づくりを進めます

魅力・活力ある都市づくりを進めます

- 自然や歴史・文化を生かした魅力ある都市づくりを進めます
- 広域的な交通機能を強化します
- 地域経済を支える産業基盤の整備に努めます

2. 将来フレームの設定

野洲市の人口は、平成 17 年の国勢調査においては 49,486 人であり、5 年間の増加率は 2.4%と県内の市町の中では高い水準にあります。全国的には人口減少時代に突入しましたが、本市においては、今後も交通利便性や住環境の優位性を背景に、京都、大阪の通勤圏として、人口が増加すると見込みます。このため、平成 32 年における目標人口を「約 59,000 人」と設定します。

人口・世帯員数 実績と計画

	総人口(人)			世帯数 (世帯)	平均世帯員数 (人)
	実績人口 (推計人口)	政策人口	計		
昭和 50 年	32,513		32,513	7,841	4.15
昭和 55 年	38,144		38,144	9,539	4.00
昭和 60 年	42,478		42,478	10,920	3.89
平成 2 年	43,671		43,671	11,765	3.71
平成 7 年	45,865		45,865	13,190	3.48
平成 12 年	48,326		48,326	15,170	3.19
平成 17 年	49,486		49,486	16,589	2.98
平成 32 年	54,000	5,000	59,000	25,000	2.36

平成 17 年までは国勢調査人口

平成 32 年はコーホート要因法による推計値を基準にした推計人口 + 政策人口

3 . 将来都市構造

将来都市構造は、拠点、軸、ゾーンにより、将来の都市の骨格をあらわすものであり、野洲市の土地利用や施設配置等の基本となります。

(1) 拠点

都市拠点

J R野洲駅周辺地域は、多くの人々が暮らし、訪れ、活動する地域であり、行政、文化、商業・業務・サービス、居住及びこれらが複合した機能の配置と更なる充実を図ります。

都市拠点は様々な都市機能の集積地であることから、核となるJ R野洲駅への円滑な道路アクセスと公共交通の利便性の強化や、バリアフリー等の整備などを図り、地域内外への情報発信、交流拠点としてにぎわいのある拠点整備を進めます。

副都市拠点

市役所分庁舎を中心とする吉地・西河原地区の市街地については、市域北部の中心地として、都市拠点を補完する都市機能の充実を図ります。

副都市拠点は田園に囲まれたゆとりと自然豊かな趣のある居住機能を基本としつつ、行政、文化、商業・業務・サービス等の多様な機能の充実・強化を目指して、自然と調和した新たな市街地の整備を図ります。

情報交流・創造拠点（副都市拠点）

市域のほぼ中央で、東西方向の軸と南北方向の軸が交わる地域は、市民・企業・行政の連携による情報交流と創造の拠点として位置づけ、新駅の設置等を含め長期的に市街地整備を図ります。

東部交通拠点

J R篠原駅を中心とした地域は、市域東側からの玄関口となる東部交通拠点として位置づけ、駅の橋上化と連動した公共交通の利便性の充実を図るとともに、周辺部に新たな市街地の形成を図ります。

東部交通拠点は周囲からの交通アクセスの整備を図ることなどにより、住環境や商業・サービス機能等の向上を進めるとともに、周辺の自然環境と調和した工業基盤の強化につなげます。

自然・環境交流拠点

市域北部のピワコマイアミランド・マイアミ浜オートキャンプ場周辺と、南部の滋賀県希望が丘文化公園・県立近江富士花緑公園周辺は、自然・環境交流拠点と位置づけ、琵琶湖湖岸緑地・吉川緑地を含め、自然公園区域等周辺エリア全体の自然環境の保全に努めるとともに、拠点施設を中心として人々の交流、人が自然とふれあう場として整備、活用を進めます。

(2) 都市軸

国土連携軸

市民生活の行動範囲の広がりや交流人口の増加等から、京阪神地域はもとより、東海・北陸方面との広域的な連携軸としてJR琵琶湖線、国道8号を中心とする「国土連携軸」の充実を目指します。

地域間連携軸

周辺市町との連携強化に向けて、主要地方道大津能登川長浜線や都市計画道路大津湖南幹線、主要地方道近江八幡守山線、主要地方道野洲甲西線、一般県道近江八幡大津線などを中心として、「地域間連携軸」の充実を図ります。

交流連携軸

市域の南北に位置する市街地間や各拠点間の交流など、地域内交流の促進や新たな地域間連携をめざし、琵琶湖から三上山・希望が丘周辺まで市域の南北を縦貫する「交流連携軸」の形成を目指します。

(3) ゾーン

市街地ゾーン

主要な公共施設が集積する地区や計画的に整備された住宅地を中心とする地域は市街地ゾーンと位置づけ、周辺の自然環境と調和を図りつつ、行政、居住、商業・業務・サービス機能をはじめとする各種都市機能の整備を進めます。

工業ゾーン

大規模工場・工業団地が立地する地域は工業ゾーンと位置づけ、既存工場と周辺環境の調和を図ります。

農業ゾーン

郊外に広がる農地・集落地は農業ゾーンとして位置づけ、都市と農村の連携に留意しつつ、生産性の高い農業を目指した生産基盤の強化・高度化や、農地の多面的な機能を考慮した農地全域の環境保全を進めます。

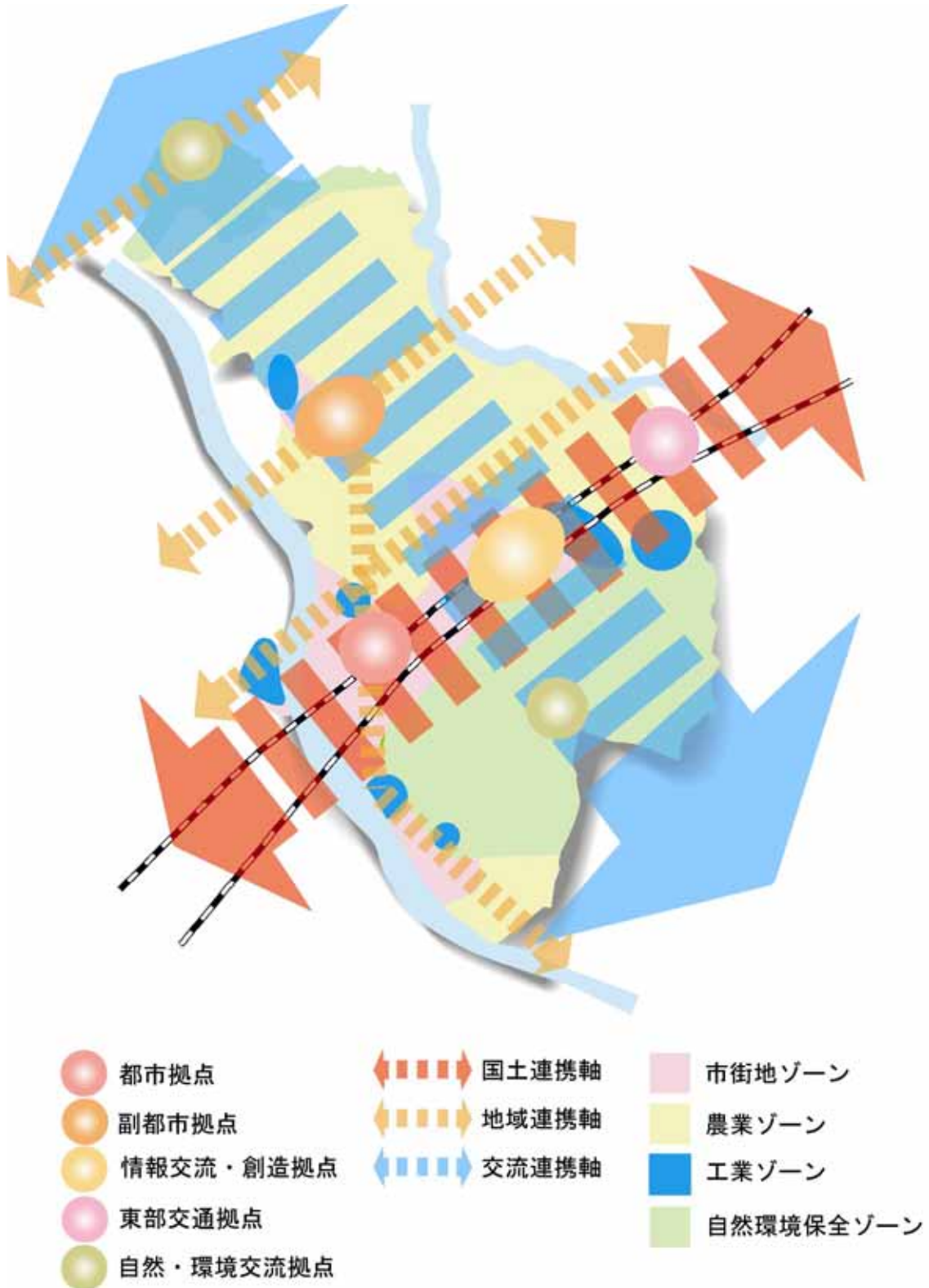
市街地周辺の農地など、生産性の高い農業経営が困難な地域については、観光等と連携した体験型農園の整備など、多様な活用を図ります。

自然環境保全・活用ゾーン

三上山を中心とした森林と、琵琶湖沿岸、野洲川や日野川等の水辺空間は、人々に心の豊かさや潤いを与える水と緑の環境ネットワークとして結びつけ、水にふれ合い、感じることができる水辺空間の整備と、三上山から琵琶湖まで散策やサイクリングを楽しむことができる道づくりを進めます。

自然環境と、豊富な歴史文化遺産を相互に結びつけることで、地域内外の人々が潤い・楽しみ・感じる観光・レクリエーション空間の創出を目指します。

【将来都市構造図】



図は概ねの範囲を示しています。

未来の野洲市

「優しい心がいっぱいの町になあれ」

小学校 5 年 北村 優美さん

こんな町だったらいいな。友達がいっぱいできる町。大人も子どももニコニコとあいさつができて、みんなの笑顔がいっぱいの町。

こんな町だったらいいな。遊びがいっぱいできる町。自然がいっぱい、生き物いっぱいの遊び場がたくさんあってみんなが楽しくのびのび遊べる町。

こんな町だったらいいな。こまっている人がいない町。体の不自由な人や、お年よりも安心して生活できる町。

こんな町だったらいいな。地球にやさしい町。ゴミを減らしたり、リサイクルしたり、電気の節約をして、環境がよくなる町。

こんな町だったらいいな。優しい人がいっぱいの町。優しい心がいっぱいの町。そんな野洲市になってほしいです。

“未来の野洲市” 作品募集 入選作品より